

【資料】 令和5年度 教育委員会委員活動状況について

(1) 教育委員会の会議回数等

年	月	月日	議案	協議事項	報告事項
令和5年	4	R5.4.19	0	1	0
	4	R5.4.24	1	0	1
	5	R5.5.16	2	0	0
	5	R5.5.29	5	2	1
	6	R5.6.29	2	0	1
	7	R5.7.20	2	1	1
	8	R5.8.24	1	1	1
	9	R5.9.28	0	1	1
	10	R5.10.31	0	0	1
	11	R5.11.27	1	2	1
	12	R5.12.27	0	1	1
令和6年	1	R6.1.31	3	0	1
	2	R6.2.21	11	0	1
	3	R6.3.28	1	0	1
計(14回)			29	9	12

(次回教育委員会日程は除く)

(2) 令和4年度 教育委員の学校園等訪問 <13日間、15箇所>

(小・中学校8、認定こども園4、子育て支援センター2、学校給食センター)

月日	午前
R5.6.28	浜坂東小学校
R5.7.4	温泉小学校
R5.7.6	照来小学校
R5.7.10	浜坂北小学校
R5.10.16	浜坂南小学校
R5.10.17	浜坂認定こども園
R5.10.24	夢が丘中学校
R5.10.26	明星認定こども園
R5.10.27	浜坂西小学校
R5.11.9	浜坂中学校
R5.11.10	浜坂子育て支援センター、学校給食センター(給食)
R5.11.13	ゆめっこ認定こども園、温泉子育て支援センター
R5.11.14	大庭認定こども園

(3) その他活動

	月日	内容	場所	出席人数
町外事業	R5.7.12	但馬連合会総会・研修会	朝来市	4名
町外事業	R5.5.25	兵庫県教育委員会連合会総会・研修会	播磨町	3名
町内事業	R5.8.17～18	全県夏季教育委員会研修会	神戸市	1名
町内事業	R5.11.7	近畿市町村教育委員会研修大会	オンライン	5名

	月日	内容	場所
町内行事	R5.4.3	教職員辞令交付式	浜坂多目的集会施設
	R5.4.	入学(園)式	各学校園
	R6.3.	卒業(園)式	各学校園

※ 任意参加行事:運動会、オープンスクール、学習発表会、文化祭 等

令和5年度 社会教育施設・事業評価について

番号	施設名	事業評価概要	
1	加藤文太郎 記念図書館	成果	・令和5年度は前年度と比較して利用者数・貸出冊数ともに増加した。工夫した図書館イベントを実施することで幼児から高齢者の方に、より図書館を身近に感じてもらうことができた。 ・図書館事業として新たに江原河畔劇場団員による絵本を使った体験型芸術パフォーマンスを実施した。子どもたちが参加し、新しい体験により絵本への親しみを深めた。
		課題	・開館30周年記念イベントの啓発を行い、図書館利用と読書機会の増やしたい。また、引き続き学校や温泉公民館図書室等と連携し、地域の情報拠点として蔵書の充実に努める。 ・小学校児童に図書館見学の機会を設けるとともに移動図書館車の利用を呼びかけ身近に感じてもらう。 ・若者から高齢者まで、各世代のニーズに応じた図書のPRを進める。 ・幼児期から本と出合う機会を増やすため、イベントを工夫していく。
2	浜坂 先人記念館	成果	・第1～2四半期は、町の歴史・文化を取り上げた企画展を開催した。また、第3～4四半期は、町民を対象に書道・写真・絵画作品をテーマとした展示を中心に開催した。 ・4月に文化財センターが開館したことを機に、収蔵資料の展示を増やしている。
		課題	・文化財センターと連携した町収蔵資料にかかる魅力の深掘りを行い、町内外にその成果を発信し実物を観るために館に足を運んでもらう流れを作る必要がある。
3	文化財センター	成果	・令和5年度より研修室を備えた文化財収蔵施設として稼働し、年間では815人の利用があった。 ・資料整理については、先人記念館から移動した美術作品を整理・展示に活用したほか、未整理であった郷土史家の寄贈資料の整理、分類を進め、一部をロビーで展示した。
		課題	・町の歴史文化財活用の拠点として地域住民へのPRを行う必要がある。 ・先人記念館から味原小径、文化財センターを含めた範囲を散策のルートとして利用を促し、町内外への更なる周知が必要であること。 ・資料、書籍類の閲覧と利用のための目録作成など一体的整理を行うことが必要である。
4	八田 コミュニティセンター	成果	・貸館事業は、利用者数・利用回数と併せて前年度に引き続き増加傾向にあり、コロナ禍の影響からは回復に向かっている。 ・令和5年度は写真や絵画の作品展のほか、県立人と自然の博物館との連携事業や音楽のイベントなど多様な催し物の会場として地域内外から利用があった。 【指定管理者：八田文化交流会】
		課題	・展示室の利用について、前年度から入館者数等は増加の傾向にあるものの、長年の課題となっている展示内容の充実に向けて、展示スペースのレイアウト変更や展示資料の活用などに取り組む必要がある。
5	社会体育施設	成果	・通常貸館事業では、コロナ5類に移行したが、引続き感染防止対策を徹底することで、前年度以上の施設利用件数を確保することができた。 【指定管理者：新温泉町スポーツ協会】
		課題	・コロナ5類移行に伴いコロナ前と同じように随時各種大会イベントを開催し、施設利用の普及と事業の推進を図る。 ・各施設ともに経年劣化等による老朽化が激しく、今後は体育施設の耐震補強も含め、計画的に大規模改修及び改築または廃止等を検討していく必要がある。 ・艇庫事業においては、学校教育や社会福祉、観光関係者と連携し、利用促進を図っていく。
6	町民センター 図書室	成果	・通常図書貸出業務 新規登録 157冊 ・コロナ5類に移行したが、感染拡大防止対策を実施しながらの貸出しや学生の学習利用などにも配慮した。 ・図書配置について利用者にわかりやすいレイアウトを心がけ、利用者の求める本の相談に応じるなど、町民がより利用しやすい図書室づくりを行い、少しずつ利用が増えてきている。
		課題	・新規図書購入について、加藤文太郎記念図書館と連携し図書の選定を行った。今後、利用者のニーズをさらにリサーチしてコンパクトな図書室の利点を生かした誰もが利用しやすい図書室の環境づくりを行っていく必要がある。
7	文化体育館 「夢ホール」	成果	・学生演劇など新たな事業を実施したほか魅力あふれた各種自主事業を継続して開催し夢ホールを広くPRするとともに、交流人口の拡大に寄与した。 ・芸術文化観光専門職大学とオペレータークラブの交流・連携事業、またアナウンス講座などを計画的に実施し、若い世代がオペレーターへの興味・関心を抱く機会を提供し、オペレーター育成の充実に図った。
		課題	・より有益な芸術鑑賞の機会を提供していく必要がある。 ・町民が夢ホールを身近に感じられるよう魅力的なイベントの誘致、PRの実施、芸術文化観光専門職大学との連携事業の活性化、新たな参加客層（特に若者世代）獲得のために、SNSの積極的な活用などを継続して検討するとともに計画的、具体的に実施していく必要がある。